

筑波大学学群生の PC 利用場所としての図書館選択理由

黒澤 春佳

図書館資料やサービスの電子化の急速な進展をうけて図書館本来の在り方、「場としての図書館」に再び焦点を当てようとする動きがある。

歳森(2010)は学生向け PC の設置場所としての図書館の優位性を認める一方、端末さえあれば「場としての図書館」に利用者がやってくることに疑問を呈している。

しかしながら、なぜ PC の利用場所として図書館を利用するのかについての詳細な研究は存在しない。また、図書館での PC 利用については「PC 設備と、図書館にある紙媒体資料の利用を結び付ける」ことが期待されている一方、図書館資料と無関係な利用が多いのではないかと危惧されている。よって、その選好理由を明らかにすることは「場としての図書館」に求められるものを明らかにする上で重要であると考えられる。本研究では筑波大学中央図書館にて質問紙調査を行い、筑波大生の PC の利用場所として図書館の選択理由について明らかにし、PC の利用場所としての「場としての図書館」の特性を明らかにする。

2011 年 6 月 17 日の 9 時 40 分から 17 時、2011 年 9 月 29 日の 9 時 40 分から 20 時まで筑波大学中央図書館質問紙を配布し、有効回答数は 547 件、有効回答率は 29.3%であった。

調査の結果以下の 3 点が明らかになった。

- ①図書館の備え付け PC の利用目的が学習・調査・研究以外で利用する利用者はそうでない利用者より PC 利用時に図書館資料・電子ジャーナルを利用し、PC 利用場所として図書館を選択した理由として図書館資料が使えることをあげる。
- ②サテライトで図書館資料・電子ジャーナルを使う利用者はそうでない利用者より図書館で備え付け PC 利用時に図書館資料・電子ジャーナルを利用し、PC 利用場所として図書館を選択した理由として図書館資料が使えることをあげる。
- ③図書館とサテライトを使い分けていない利用者は図書館で備え付け PC 利用時に図書館資料を利用せず、図書館での備え付け PC 利用理由は図書館資料の利用ではない。

以上の 3 点から多くの利用者が図書館の備え付け PC を利用する目的は図書館資料であり、たとえ学習・調査・研究以外の目的で利用している利用者でも図書館を選好する理由は資料であり、逆に電子ジャーナルや図書館資料を利用しない利用者は特に図書館を選好しているわけではないと考えられる。よって今回の調査結果から PC 利用場所としての筑波大学学群生の図書館選択理由は図書館資料であると考えられる。

今後は利用者へのインタビュー調査、他のサテライト利用者との比較調査により、いっそう精緻な分析ができると考えられる。

(指導教員 逸村裕)